令和7年度施策評価結果 －まちづくりの進捗状況を評価－

- 本市では、まちづくりの長期的な指針である**総合計画で定める「ありたいまち」の実現に向けて、毎年度、取組状況を振り返る「施策評価」を実施**しています。
- 各施策の成果や課題、今後の取組方針などを確認し、その**結果を次年度の予算編成につなげています**。
- 市民の皆さんに分かりやすく、まちづくりの進捗をお伝えできるよう、施策評価に基づくまちづくりの評価が一目で分かる**「まちの通信簿」を毎年度公表**しています。

まちの通信簿

尼崎市民の皆様へ

令和６年度決算からみる「まちの通信簿」

あまがさきの

あゆみ

　まちの通信簿は、総合計画に基づくまちづくりの取組状況を分かりやすくお伝えするために作成しています。

　３つの総合指標、主要取組項目に関する８つの指標をもとに、令和６年度の取組のふりかえりを行うとともに、これから重点的に取り組む項目を示しています。

令和７年８月

施策評価を起点としたPDCAサイクル

Start
起点

Check

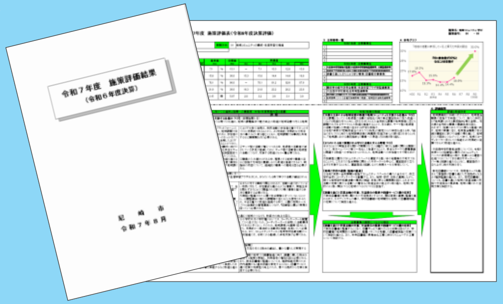
施策評価の実施

まちの通信簿
- 総合評価
- 総合指標による評価
- 主要取組項目ごとの評価
- 財政状況の評価

施策別の評価
行政運営の評価
市民意識調査結果

Action

施策評価結果⇒
予算編成方針発信・決算審議



市民意見
の聴取

Plan

- **主要事業の策定**
（新規拡充事業の構築・事務事業の見直し）
- **人材配置・組織体制**

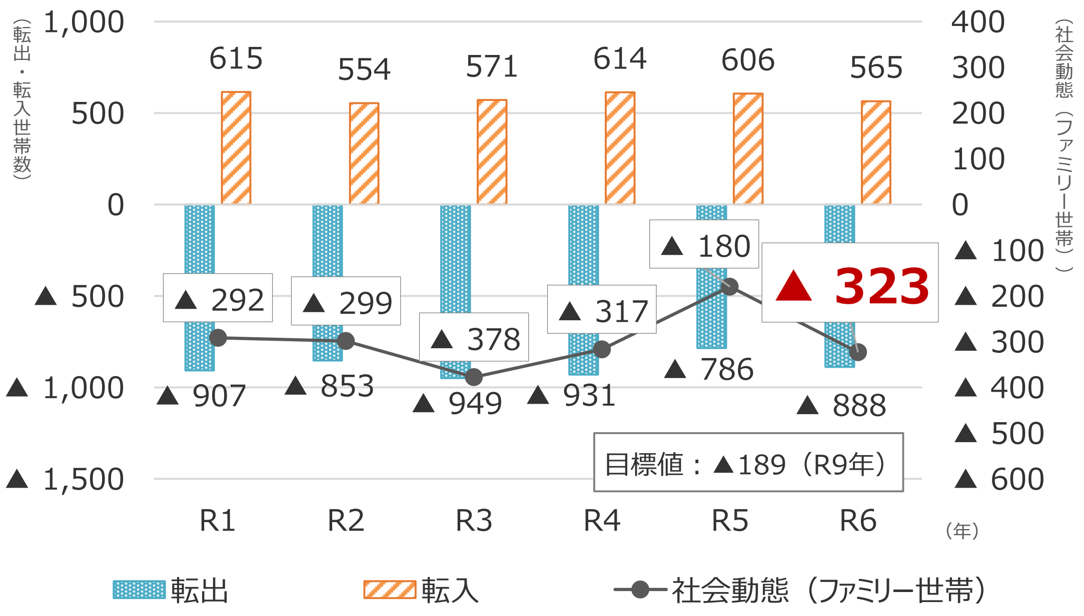
Do

事務事業の実施

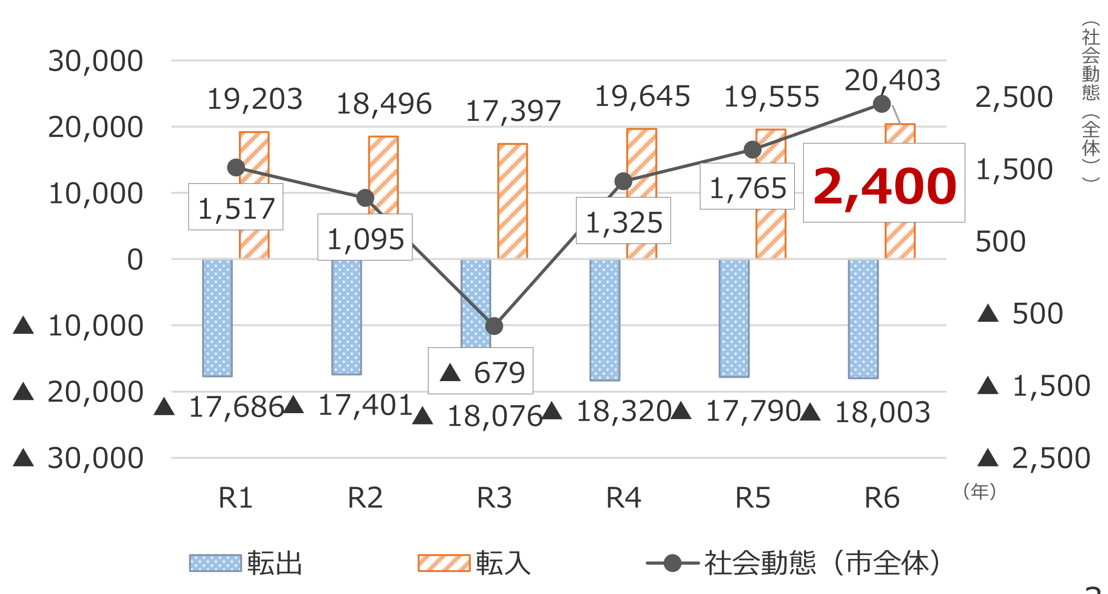
①ファミリー世帯（5歳未満の子どもがいる世帯）の転出超過数は前年から増加

- **ファミリー世帯の転出超過数は323世帯**となり、**前年から増加**し、**一昨年並みの水準**となりました。
- **市全体の社会動態でみると、令和6年は2,400人の転入超過**で、**3年連続の社会増**となり、**57年ぶりの高い数字**
- 近年増加傾向にある単身世帯に加え、転入超過が続く二人世帯がファミリー世帯になっても「住みたい」「住み続けたい」と感じられるまちづくりを更に進めるとともに、引き続き、定住・転入の促進に取り組みます。

ファミリー世帯の転出超過数



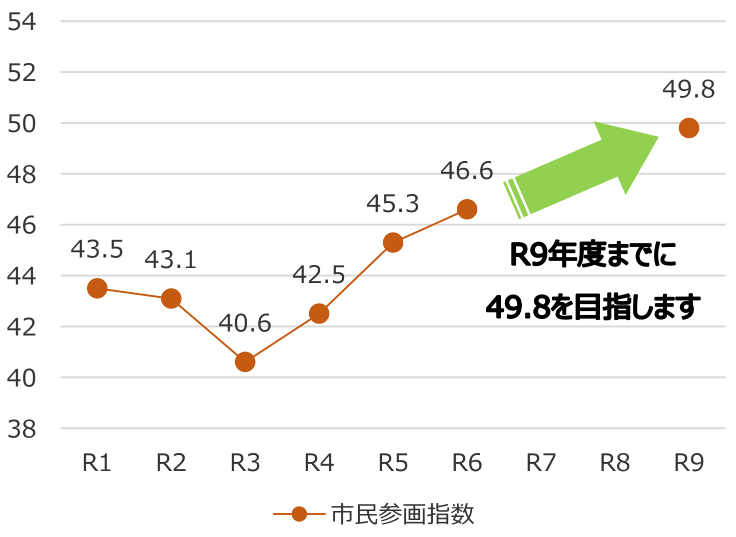
尼崎市の社会動態の推移（全体）



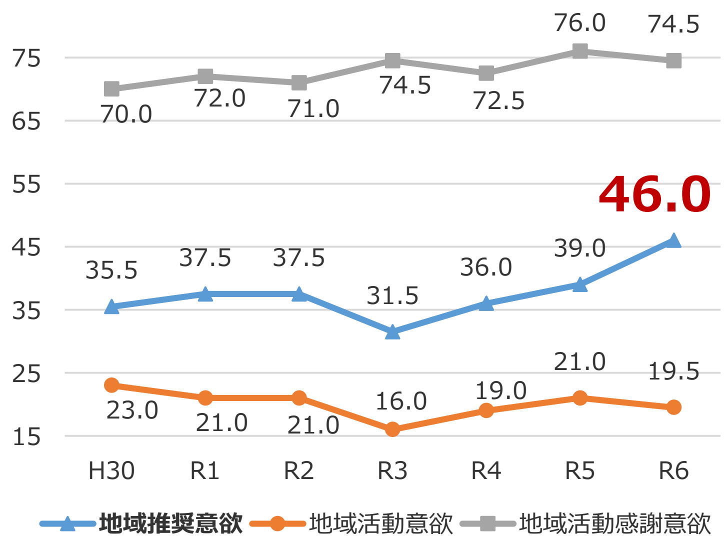
②「地域推奨意欲」が大きく向上し、若年層を中心にまちに対する評価が上昇

- 市民参画指数のうち、わがまちをオススメしたい**「地域推奨意欲」は46.0と、前年度から大きく増加**し、**特に若い世代の意欲が高く**なっています。
- まちの魅力やイメージ向上に向けた、これまでの取組が実を結び、これらの指標に成果として表れていると評価しています。

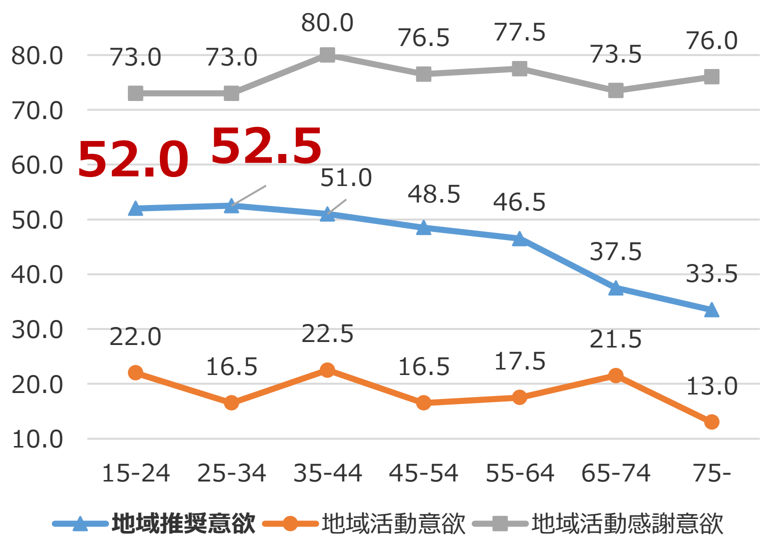
市民参画指数の推移



市民参画指数を構成する３意欲の推移



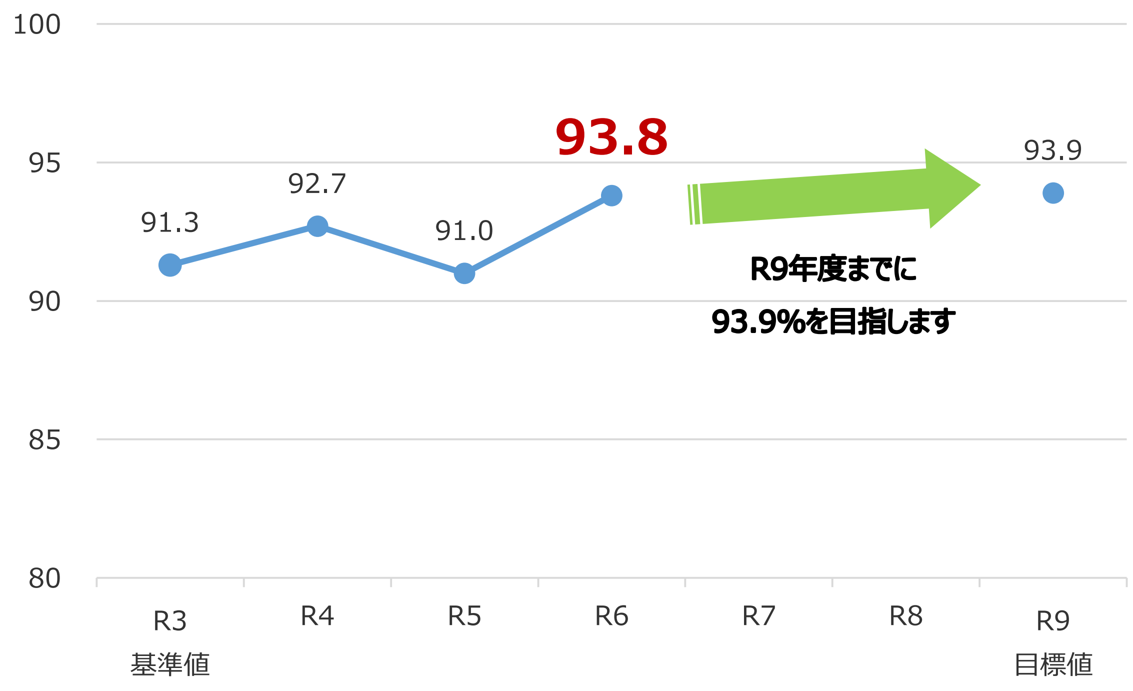
令和6年度 年齢階層別の3意欲の比較



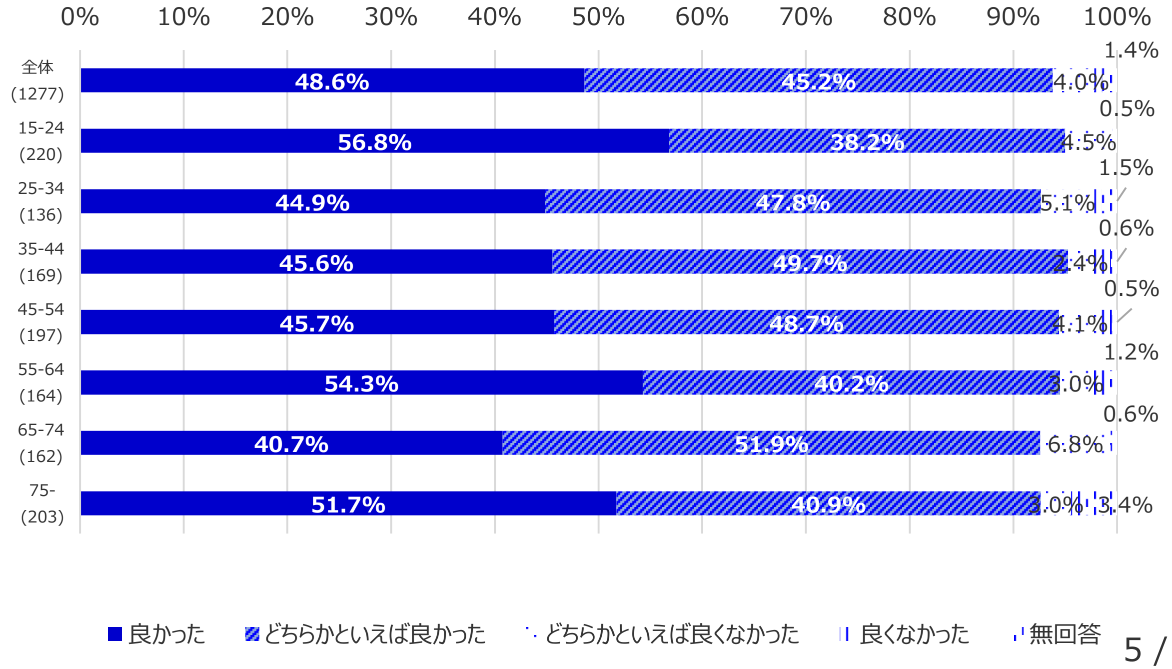
③「『尼崎市に住んでよかった』と感じている市民の割合」はほぼ目標値を達成

- 居住地としてのまちの評価を測る「市民の実感」を確認しているこの指標は、**<u>93.8%まで上昇</u>**し、**<u>過去最高を更新</u>**。
- 高い生活利便性や職住近接などの本市の強みが評価されるとともに、シチズンシップの向上やシビックプライドの醸成への取組の成果が表れています。

「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合



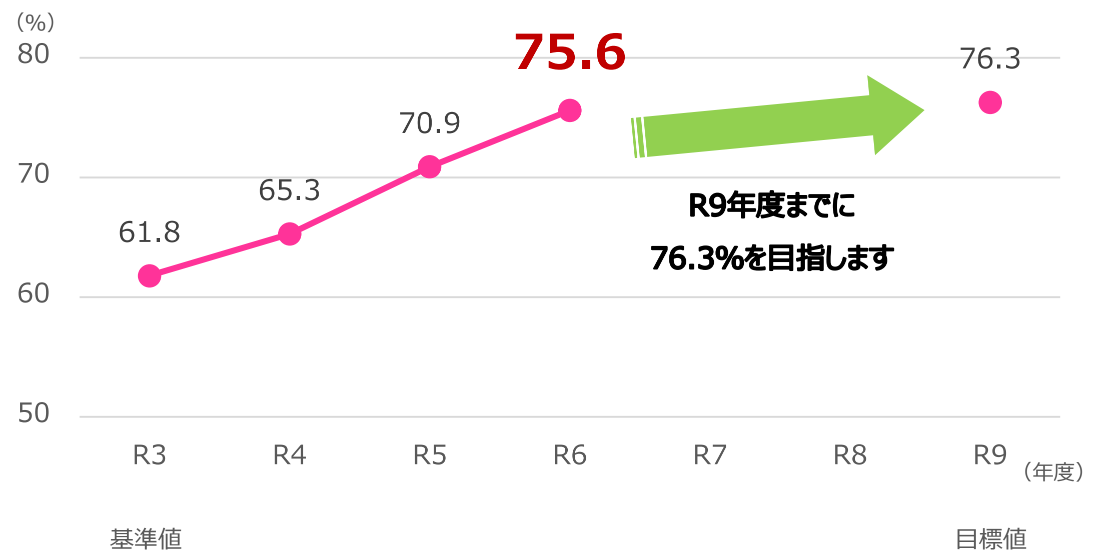
年齢階層別
「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合



④「安全で安心して暮らせるまち」だと感じている市民の割合は着実に増加

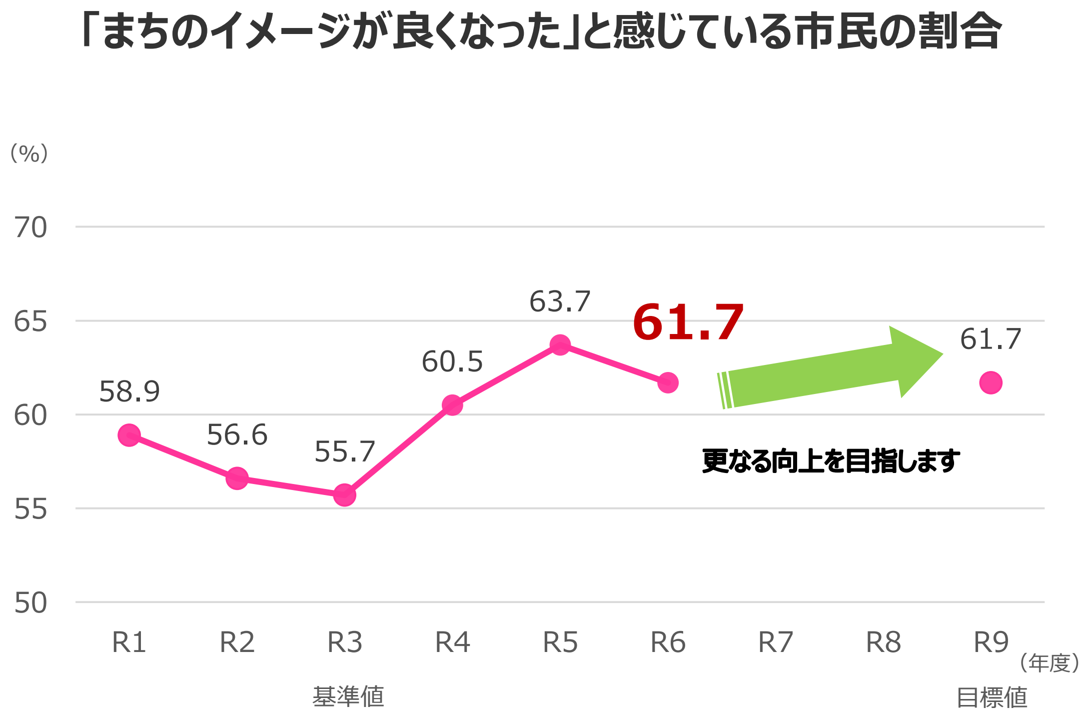
- **「安全で安心して暮らせるまち」だと感じている市民の割合は、75.6%と着実に増加**し、**過去最高**を更新。
- 多様な支援ニーズに応える施策の充実を図り、誰もが安心して暮らせる包摂的な社会づくりに向けた基盤強化を進めます。

「安全で安心して暮らせるまち」と感じている市民の割合



⑤「まちのイメージが良くなった」と感じている市民の割合は高い水準を維持

- **「まちのイメージが良くなった」と感じている市民の割合は、61.7%**と前年度から**引き続き高い水準を維持**しています。
- 近年着実に改善傾向にあることから、更なる高みを目指し、まちの魅力向上と発信に取り組みます。



令和8年度の予算編成に向けて（予算編成方針）

こうした指標の推移や施策別の評価、社会情勢などを踏まえた

総合評価を行い、**令和8年度の予算編成方針を策定**

令和8年度の予算編成に向けては、

これまでの成果と課題を把握し、

次の5項目に重点的に取り組んでいきます。

令和8年度の予算編成に向けて（重点化項目）

重点項目１　**安心して働き、子育てができる環境づくりと子どもの育ち支援の充実**

- 子育てに係る家計・ゆとり・安心のサポートの取組強化
- 子どもの安全確保のための環境づくり
- 個別最適な学びの保障と機会の確保

重点項目２　**まちの価値を高める良好な住環境形成とエリアブランディングの推進**

- 住宅の新陳代謝の促進
- 安全かつ快適に住み続けられる住環境の実現
- 鉄道駅を中心としたまちの魅力と活力の創生に向けた取組の推進

重点項目３　**市内事業者の挑戦を応援し、多様な人材が活躍できる地域経済活性化**

- 地域経済の成長へつながるイノベーション創出支援
- 地域経済を支える雇用就労支援の充実

重点項目４　**誰もが安心して暮らせる包摂的な社会づくりに向けた基盤強化**

- 多様な背景を持つ人々が安心して暮らし続けられる基盤づくり

重点項目５　**市民の利便性や満足度を高める共創ＤＸの推進**

- デジタル技術を活用した市民サービスの向上と業務の効率化

まちの通信簿の公表

- 施策評価を通じたまちづくりの進捗状況の評価や評価をもとにした今後重点的に取り組む項目を、市民の皆さんにも分かりやすくまとめた、**「まちの通信簿」（あまがさきのあゆみ）を発行**します。

表紙

尼崎市民の皆様へ

令和６年度決算からみる「まちの通信簿」

あまがさきの

あゆみ

まちの通信簿は、総合計画に基づくまちづくりの取組状況を分かりやすくお伝えするために作成しています。

３つの総合指標、主要取組項目に関する８つの指標をもとに、令和６年度の取組のふりかえりを行うとともに、これから重点的に取り組む項目を示しています。

令和７年８月

見開き

尼崎市総合計画

まちの通信簿

（令和６年度決算）

評価のみかた

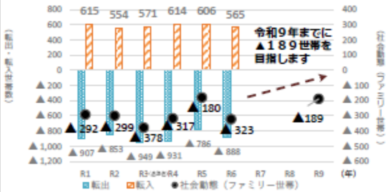
基準値を上回っており、昨年度と比較して目標に近づいている場合 ⇨ よくできました	基準値を下回っているが、昨年度と比較して目標に近づいている場合 ⇨ もう少し
基準値を上回っているが、昨年度と比較して目標に近づいていない場合 ⇨ できました	基準値を下回っており、昨年度と比較して目標に近づいていない場合 ⇨ がんばりましょう

総 合 指 標

① あまがさきで子どもを育てる人が増える

ファミリー世帯(5歳未満の子どもがいる世帯)の転出超過傾向は、本市の最重要課題の1つです。課題解決に向け、教育や治安・マナーの向上などに総合的に取り組み、転出超過数の半減をめざします。

■ファミリー世帯の転出超過数の推移



【分析結果等】

・令和6年のファミリー世帯の転出超過数は323世帯となりました。

・引き続き、単身・二人世帯が大幅な転入超過。

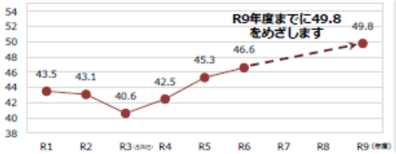
・単身、二人世帯がファミリー世帯になっても住み続けたいと感じてもらえるまちづくりが必要。

評価欄：できました

② まちのことを想い、活動する人が増える

まちの課題を解決し、魅力を高めるためには、まちに愛着を持ち、まちづくりに参画する人を増やすことが大切です。「地域推奨意欲」「地域活動意欲」「地域活動感謝意欲」の3つを組み合わせた市民参画指数の向上をめざします。

■市民参画指数の推移



【分析結果等】

・令和6年度の市民参画指数は46.6となり、前年度と比べ上昇。

・地域推奨意欲が大きく向上。

・地域活動意欲は横ばいだが「忙しくて参加できない」「一緒に参加する人がいない」の層は一定の意欲が見られ、参加しやすさ、きっかけ作りが重要。

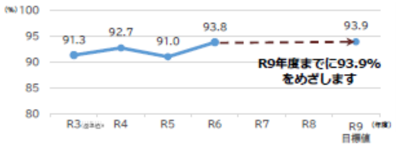
・地域活動感謝意欲は横ばい。「まちに興味がない」「自分には関係がない」と回答した層の意欲が低く、無関心層への働きかけが課題。

評価欄：よくできました

③ あまがさきに住んで良かったと思う人が増える

全国的に人口減少が進行するなか、選ばれ続けるまちであるためには、市民の本市に対する満足度が何より大切です。そのため、居住地としてのまちの評価を測る“市民の実感”の視点として、「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合の向上をめざします。

■「尼崎市に住んで良かった」と感じている市民の割合の推移



【分析結果等】

・令和6年度の市民意識調査では、「『尼崎市に住んで良かった』と感じている市民の割合」は 93.8%となり、ほぼ目標値に到達。

・すべての年代で「良かった」「どちらかといえば良かった」の合計が90%超。

・市民ニーズや課題を的確に把握し、それらに柔軟に対応できるよう、施策を展開する。

評価欄：よくできました

主 要 取 組 項 目

分野	項目	目標	令和5年度	令和6年度	よくできました	できました	もう少し	がんばりましょう	備考
①子ども・教育	子育てしやすいまちにしたい	市民意識調査で「子育てしやすいまち」だと感じている市民の割合69.2%をめざします。(R9年度)	51.2%	57.2%	○				過去最高を更新！
①子ども・教育	子どもたちの学力を伸ばしたい	全国学力・学習状況調査における平均正答率の全国との比較において、あまがさきの子どもの学力が全国平均を超えることをめざします。(R9年度)	(小6) 0 (中3) △3～△4	(小6) 0 (中3) △1～△2	○				小学校で目標を達成！
②生きがい・ささえあい	「安全・安心」を感じながら暮らしてほしい	市民意識調査で「安全で安心して暮らせるまち」だと感じている市民の割合76.3%をめざします。(R9年度)	70.9%	75.6%	○				
②生きがい・ささえあい	健康寿命を延ばしたい	平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加をめざします。(R9年度) 【平均寿命(R4⇒R5) 男性80.07歳 ⇒ 80.38歳 、 女性86.61歳 ⇒ 86.67歳】 【健康寿命(R4⇒R5) 男性78.57歳 ⇒ 78.91歳 、 女性83.32歳 ⇒ 83.45歳】	男性△1.50歳 女性△3.29歳 (R4年度)	男性△1.47歳 女性△3.22歳 (R5年度)	○				
③脱炭素・経済活性	二酸化炭素排出量を減らしたい	二酸化炭素排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現に向けて、市内の二酸化炭素の排出量を2，049kt-CO_2に減らします。(R9年度)	2,434kt-CO_2 (R4年度)	2,293kt-CO_2 (R5年度速報値)	○				
③脱炭素・経済活性	まちの経済を活性化したい	兵庫県が算出している市内総生産(実質GRP)の成長率が国内総生産(実質GDP)の成長率を上回ることをめざします。(毎年度)	市:107.1% (国:102.8%) (R3年度)	市:101.9% (国:101.5%) (R4年度)	○				
④魅力向上・発信	学びと活動を循環させたい	市民意識調査で「生涯学習活動が地域活動につながった」と感じている市民の割合13.1%をめざします。(R9年度)	12.8%	13.8%	○				R9年度目標を達成！
④魅力向上・発信	「まちのイメージ」を向上させたい	市民意識調査で「まちのイメージが良くなった」と感じている市民の割合61.7%をめざします。(R9年度)	63.7%	61.7%	○				引き続き高い水準を維持！

財 政 運 営 状 況

分野	項目	目標	令和5年度	令和6年度	よくできました	できました	もう少し	がんばりましょう	備考
持続可能な行財政基盤の確立	収支を黒字にできている	市の貯金である基金を取り崩すことなく毎年度収支均衡を確保できるよう、安定的な財政運営に取り組みます。(毎年度)	取り崩しなし	取り崩しなし	○				
持続可能な行財政基盤の確立	借金を減らせている	必要な未来への投資と将来の負担のバランスを取りながら、着実に将来負担の抑制を進めます。(令和14年度に1,000億円以下)	979億円	920億円	○				

令和6年度のふりかえり

○ 令和6年度はエネルギーや食料品を中心とした物価高騰を踏まえ、国が実施する定額減税や給付事業のほか、あま咲きコインのプレミアムキャンペーンや脱炭素化設備の導入に対する補助など、市民生活や企業活動への支援を実施してきました。

○ ファミリー世帯の転出超過数は前年から増加し、一昨年並みの水準となりました。また、市民意識調査における「『尼崎市に住んでよかった』と感じている市民の割合」や、「今後も『本市に住み続けたい』と回答している市民の割合」は引き続き高い水準を維持しています。より多くの人に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるよう、「ルール・マナー」「防犯」「学校教育」といった、十分に評価が得られていない課題に対し、取組を更に推進することが重要です。

○ 財政状況については、令和6年度は引き続き黒字決算となり、令和7年度当初予算においては実質的な収支均衡予算を確保するなど、着実に好転しています。今後も、「財政運営方針」の目標達成に向けた取組を続けながら、より柔軟かつ効果的な財政運営を行うことが重要です。

裏表紙

これからがんばること

<物価高騰対策>

令和７年度には、物価高騰対策として学校給食の食材費高騰への支援や、あま咲きコインのプレミアムキャンペーンなどを引き続き実施するほか、お米をはじめとする食料品等の価格高騰により家計への負担が増している状況を踏まえ、全世帯を対象とした「お米券」の配布を行います。今後も社会情勢を注視しつつ、適時適切に対応していきます。

<安心して働き、子育てができる環境づくりと子どもの育ち支援の充実>

誰もが子育てをしやすいまちを目指し、「あまがさき子ども・子育てアクションプラン」を踏まえ、令和６年度に設置した「子育て政策懇話会」での議論も活かしながら、子ども・子育てに係る経済的・時間的・心理的な支援と環境の充実を部局横断的に取り組み、引き続き「『働く』も『子育て』も応援するまち」づくりを進めます。

<まちの価値を高める良好な住環境形成とエリアブランディングの推進>

ファミリー世帯から「住みたいまち」「住み続けたいまち」として選ばれるよう、交通利便性や生活利便性といった本市のポテンシャルを活かし、エリアブランディングをはじめとしたまちの魅力・イメージ向上に向けた取組を進めます。さらに、制度の在り方検討を含めた良好な住宅・住宅地の供給誘導、空き家対策の推進による住宅の新陳代謝の促進など、魅力ある住環境の形成に取り組み、定住・転入の促進を更に強化していきます。

<市内事業者の挑戦を応援し、多様な人材が活躍できる地域経済活性化>

オープンイノベーションコア尼崎による企業等の新たな交流拠点の設置を進め、創業などのチャレンジや企業間のマッチングを通じたイノベーション創出支援に係る取組の更なる充実を図ります。また、多様な人材が活躍できる就労環境整備に向けた検討を行い、雇用就労支援の充実に取り組みます。

<誰もが安心して暮らせる包摂的な社会づくりに向けた基盤強化>

福祉や教育などに関する多様な支援ニーズに応える施策の充実を図るとともに、多文化共生社会の実現にも引き続き取り組み、誰もが安心して暮らせる包摂的な社会づくりに向けた基盤の強化を進めます。

<市民の利便性や満足度を高める共創ＤＸの推進>

様々な取組の推進とあわせて、あらゆる施策でＤＸの視点を取り入れ、「行かない、書かない、待たない窓口」といった手続のスマート化に加え、プッシュ型通知の拡大などによる効果的な情報発信など、市民の利便性や満足度の向上を図り、共創型スマートシティの実現に向けた取組を進めていきます。

<財政規律の確保>

財政面においては、引き続き、「財政運営方針」で示した財政規律、財政運営の目標を踏まえつつ、将来にわたって安定的で持続可能な財政基盤を築いていくことを通じて、新たな政策を実施するために必要な財源を柔軟に確保し、必要な事業への投資も行いながら、魅力あるまちづくりに向けた取組を着実に実施していきます。

より詳しい内容はこちらをご覧ください。

作成　尼崎市 都市政策課